お茶の時間

1月下旬、早々と庭の梅が咲き、やはり暖冬だったはずが3月7日、ちらついていた雪が昼から本降りになり銀世界に。天気予報の雪ダルママークを疑っていたがどんどん積もっていく。午後3時半の外の気温1.7°C。
満開の桃色の梅の花に雪が重なり思いかけない眺めが嬉しかった。
一点、世の中に目を向けると、そんな道理が通るのかと不思議ばかりが起きている。雪はまっ白に美しく被ってしまうが、その下に隠れてしまったものは？

こころに響く言葉

一つのことをやり続ける想いをこめて大事に作る

歴史的建造物を復元、海外でも活躍する左官職人、久住有生さん（44才）の言葉。「手間暇かけるということが大事なことですね」と言葉は続く。各分野で活躍する人たちは、日々の努力を惜まない。
毎日あたふた暮しているが、続けることって大切だと改めて思った。まだまだ、これから。

小さな猛禽（もうきん）

休日、朝から編集のために机にかじりついていると、庭のチェックに出かけていた夫が「スズメ振りに見た！」とアイパッドを取りに、家の中に走り込んできた。何と、診療所の庭に植えたバラの木の枝にモズの速贄（はやにえ）をみつけたのだ。眼鏡をかけてよく見ると、トカゲが枝に刺さっていた。すでに干からびている。秋、トカゲが自宅のウッドデッキでひなたぼっこをしているのを頻繁に見かけていたからそのトカゲだろうか。

モズは、口ばしが鋭い鉤（かぎ）状をしていて小鳥などを捕えたりするが、足があまり発達しておらず、獲物を足で押さえて口ばしでつついばむことをせず、木の枝などに捕えた獲物を突き刺して口ばしでそれをついばむという食べ方をする。
小枝やトゲは、獲物を固定する手段として使っているためでは、と言われている。

"百舌"と書くモズ。すずめ・ひよどり・ムクドリ・ヒヨドリ・ツグミ・カラスなどの鳴き声を真似た複雑なさえずりを行うことが和名の由来、と鳥の図鑑にあった。イギリスではモズを「屠殺人の鳥」、ドイツでは「絞め殺す天使」と呼ばれるそうだ。はやにえを見ると納得する。
食性は主に小動物であるが、冬にはバラの実も食べるとか。体長20cm、獲物を捕える様子は、小さな猛禽なのだ、と強く印象に残った。と言われた図鑑もあった。

モズのはや贄（にえ）
自然界のすごさだ。
グロテスクだがモズの忘れもの。

歯のよもやま話　第三十二話

歯と仏教一　お釈迦様

仏様と歯について
仏教では歯についての記述や教えが結構あります。このようなことはキリスト教やイスラム教のような一神教にはないようです。おそらく多くの仏様の性格付けをする上で必要なことがその一因と思われます。
まずは、お釈迦様から。
お釈迦様（如来も）の身体には三十二相八十種好（さんじゅうにそうはちじっしゅこう）という特徴があります。すぐみてわかる特徴が三十二、細かな特徴が八十あるということです。仏像はこの特徴に倣って作られています。三十二相のうち代表的なものは
二、足下二輪相（そくげにりんそう）。足裏に輪形の相が現れている。仏足石はこれを表したもの。
五、手足指縵網相（しゅそくしまんもうそう）。手足の指の間に水かきの様な膜がある。人々を洩らさず救い上げられるように。
十四、金色相（こんじきそう）。身体が金色に輝いている。
二十一、肩円満相（けんえんまんそう）。両肩が丸く豊かである。
二十九、真青眼相（しんしょうげんそう）。眼は青い。
三十一、頂髻相（ちょうけいそう）。頭の頂が隆起している。肉髻（にくけい）。
三十二、白毫相（びゃくごうそう）眉間に右巻きの白毛があり、光明を放つ。
三十二相の中に歯に関する相が四つあります。
二十二、四十歯相（しじゅうしそう）歯が四十本ある。それらは雪のように白く清潔である。はて、普通は三十二本なんだがな。きっと前歯がたくさんきれいに並んでいるのかな。
二十三、歯斉相（しさいそう）。歯はみな大きさが等しく、硬く密であり一本のように並びが美しい。臼歯も犬歯も同じ形とすれば食事が不便だったろうな。おそらく衆生に教えを説く時にはっきり発音出来るためだろうか。
二十四、牙白相（げびゃくそう）。四十本の歯以外に四牙あり、白く大きく鋭利堅固である。すると四十四本だな。それとも犬歯は特に白くきれいだという事なのだろうか。中国語では歯は前歯、牙は臼歯を表しているが、ここでは前歯と臼歯共に歯と言っているようだし…。
その他、口に関して
二十六、味中得上味相（みちゅうとくじょうみそう）。何を食べてもおいしい。
二十七、大舌相（だいぜつそう）。舌が大きく、伸ばすと髪の生え際にまで届く。しかも、口一杯にはならない。
二十八、梵声相（ぼんじょうそう）。声は清浄で、しかも遠くまで聞える。
等があります。

鎌倉の大仏（阿弥陀如来）
与謝野晶子は釈迦牟尼として歌を詠んだ。造立時は金箔がはられていた。

子田晃一

発行　のりちゃんち編集室
編集　子田　則子
950-2072　新潟市西区松美台4－66　子田歯科医院　2階
Faxのみ　025-378-8582

人生ララ！

井出　博さん
(株)井出養蜂園 専務

♪ぶんぶんぶん蜂が飛ぶ♪
お池のまわりに野バラが咲いたよ
ぶんぶん ぶんぶん ハチがとぶ♪

昨年は駐車場にある小山の樹木にスズメ蜂が巣を作り、新潟市から20K程離れた三条市から専門業者がやってきて駆除する騒動があった。蜂は刺す、という怖いイメージが強いが、蜜蜂は私たちに栄養価の高い蜜を提供してくれる。

今回は、おいしいはちみつを製造されている養蜂家・(株)井出養蜂園の三代目、井出博さんにお話を伺った。

お店は我家から歩いて2分程だ。毎年10月に開催される新潟県はちみつ品評会で、この3年、連続最優秀賞を受賞。

店内に入ると瓶に詰められたはちみつがズラリ棚に並べられ、試食コーナーでは各種のはちみつが味わえる。

初代・祖父、美三郎(みさぶろう)さんが試行錯誤しながら始められた養蜂業を、二代目父、秀雄さんが会社勤めをしながらの兼業で協力。定年後専業に。今は博さんが三代目として引き継いでいる。初代から七十数年の時が流れた。

近くの阿砂林では、ニセアカシアが初夏満開に。甘い香りにむせるほどだ。井出養蜂場は、地元の村上市などに点在する、とのこと。

はちみつ作りの他に、新潟市内野や五十嵐地区の、スイカ、メロン農家に蜜蜂の貸し出しも。

貸し出しは、二代目秀雄さんが始めたそうで、当時農家では手作業で受粉を行っていたが、蜜蜂を使っての受粉を試すことに。効果がわかり、一～二年実験的に取り組み、成功する。

今ではビニールハウスや果樹園などに花粉交配用蜜蜂の貸し出し業も行うようになった。

蜜蜂は、性格はおとなしく、人を襲うことはほとんどない。受粉を媒介する農業上の益虫である。

春と共に養蜂家の多忙な季節が始まる。

冬、蜜蜂はどんな様子でいるだろうか。巣箱で冬眠中の蜜蜂は、互いに体を寄せ合い、蜂球を作り、室温15～16度でコントロールし越冬するそうだ。

次々に花の咲く春から初夏、巣箱の中は、35～36度程に。木枠が収められた中で女王蜂は卵を産み続け、働き蜂は蜜集めのため巣箱の出入りに忙しくなる。産みつけられた卵が蜂になるまで21日かかるとか。

働き蜂が運んできた蜜は、蜂の体内にある酵素と混ざり、数日で栄養価の高い蜂蜜になる。

口から出した蜜を、六角形の巣に広げ、羽で風を送って水分を減少。すごいなあ。

本来、はちみつは蜂たちにとって大事な保存食だが、巣箱の中の蜜ほとんどは商品となり私たちが頂く。

養蜂場に数十箱と置かれた巣箱。蜂たちの行動範囲は巣箱から半径2KMと聞いた。

晩夏続きで開花も早まっているが、4月中旬から下旬、山桜、5月は栃、6月ニセアカシアなどの単花蜜を、その他様々な花の蜜の混ざった百花蜜など咲く時期を考えながら効率良く収穫していく。

専門で、みつぶたを取って煙でいぶして蜂をおとなしくさせてから木枠を取り出し遠心分離機にかける。

収穫後、一斗缶に入れ、冷蔵保存して7月に新蜜の販売が始まる。

優れる場所、養蜂家の技術で味もかわる。安全、安心を常に心がけている。と話してくださった。

天然の純粋はちみつの効果、効能
整腸作用、のどの痛み、口唇の色裂、疲労回復など。
口内炎には はちみつを患部にそのまま塗ると、抗菌、殺菌作用により治癒効果を得るそうだ。

甘みはしっかりしているが、クセのないニセアカシアを好んで食べる。朝のひとさじは元気の素だ。

店内で売られている
ハチミツ専用容器
使い勝手がとても良い。

どれにしようかな？ みつ蜂のお陰様。
店内の試食コーナーで、好きな蜜、さがして。

新潟市西区西有明町 1-29
Tel & Fax 025-266-1319

① 濾過された純粋天然はちみつ.

② 分離機から はちみつが

③ 遠心分離機の中

④ ニセアカシアの咲いている養蜂場.

(①～④ 写真提供 井出養蜂園)

いいなこの本

「人生読本 落語版」
著者 矢野誠一
発行 岩波書店 ¥700+税

落語は楽しい。寄席で大笑いする。こころが豊かになる。笑いながらも落語の中に人生の知恵をみる。

九年前に発行されたものだが、作者は今八十二歳だ。時代背景を思い浮かべられる読者は少なくなっただろうなあ。

落語好きにおすすめの一冊。

月のつぶやき

あれから六年。東日本大震災、東京電力福島第一原発事故。どう変化したか。

被災者の苦労は計り知れない。再稼動を急ぐ、世界最大級新潟県柏崎刈羽原子力発電所でまた嘘が発覚した。東電の、こういう体質は直らないのか。

エコな電化製品が増え、今は節電などあまり気にもせず暮している。

電力は足りているのに……

原発事故の悲惨さを、忘れてはいけないのだ。

原子力災害時の放射線障害予防薬・ヨウ素剤配布や避難訓練と聞くと、原子力発電所がなければそんな心配も不用なのにな、と思う私は単純すぎるのかしら。

月が煌々と輝いている。

発行　のりちゃんち編集室